

様式1 平成30年度 学校評価報告書

学校名	須賀川市立第一小学校	学校教育目標	何事にもすすんで取り組み、気概(より良い自分をめざし、困難を乗り越える意志)をもって立ち向かう、心豊かでたくましく生きる児童の育成をめざす。 (1) 心の豊かな子ども (2) 健康でたくましい子ども (3) 意欲的に考えることも
校長名	長谷川 幸三		

「学校教育の重点」との関連	評 価 計 画			評 価 結 果		
	本年度の重点目標	評価方法及び達成指標	具体的な改善策	自己評価の概要(実現状況及び課題)	学校関係者評価の概要	判定
「小中一貫教育」須賀川モデルの推進(幼小連携の同時進行)	○ 幼保連携・小中一貫教育の推進	1 2回の小中一貫授業研究会の実施、内容の工夫 2 中学校教員授業サポートの実施 3 小中教員交流研修の実施	1 全学級授業公開の開催(研修・生徒指導) 2 中学校教員による出前授業の実施(教務) 3 小中一貫研修会の実施(教務)	○小中一貫教員のTTIによる授業研究会、全職員での生徒指導の情報交換、外部講師を招聘し、ラウンドスタディの手法を取り入れた授業の振り返り、教員交流研修、中学校教員による授業サポート等、小中一貫教育事業を計画通りに進めることができた。また、合同での評議員会開催や小中一貫子ども育てる会、小中一貫PTA交流会の充実を図ることで、めざまし姿を共有することができた。 ○小中一貫事業は、年度途中に追加して行った内容もあり、年度当初の計画策定が必要である。	小中の連携がよく取れている。今後も市内をリードしてほしい。	A B C D
安全・安心な教育環境の確保	○ 登下校の安全の確保	1 登下校の見守りボランティアの活用 2 メール一斉配信システム登録者98% 3 避難訓練の定期的実施(年間6回)	1 P育成会との連携による通学路点検(PTA担当) 2 こまめなメール発信で安全への呼びかけ(情報部) 3 自らの身を守る避難訓練の実施(安全部)	○登下校の見守り活動の継続実践や危機管理マニュアルの見直し、メール登録の働きかけとともに避難訓練は計画通りの年間6回実施することができた。 ○保護者や地域と連携し、危険箇所・通学路の点検と、子ども110番の家の確認ができた。 ○不審者出没情報、台風等自然災害への対応を、一斉メール配信と文書による周知を行い、緊急対応について家庭と共有することができた。 ○集団登校とコース別下校を継続指導し、安全意識が高められるよう取り組んできた。	まだ通学路の一部に危険と思われる箇所があるので、さらなる注意と対策が必要である。	A B C D
特別支援教育の充実	○ 特別な支援を要する児童の早期支援	1 特別な支援を要する児童の実態調査年3回実施 2 須賀川支援学校地域支援センターの活用(随時) 3 幼・保、小、中での情報交換の場の設定	1 6月、10月・1月に実態の調査を行い、対応処理を検討(特支コ) 2 須賀川支援学校地域支援センターの活用等、対応を充実させる。(特支コ) 3 小中、幼保少での教育相談の実施(9月、1月)(特支コ・養教)	○実態把握を丁寧に行い、結果を基に個別の支援の必要な児童への対応策を検討するとともに、SC等を活用して具体的指導へと結びつけてきた。 ○須賀川特別支援学校地域支援「きらり」巡回相談を計画的に活用することができた。 ○多数の児童が入級した特別支援学級も担任、コーディネーターを中心として全校体制を確立することができた。新年度入級児を対象に、体験入学やオリエンテーション・教育相談を進めることができた。	特別な支援を要する児童数が増加傾向にあるので、様々な支援の充実を期待する。	A B C D
豊かな心の育成	○ 心の教育の充実	1 道徳の時間の完全実施と授業参観で1回以上公開 2 いじめ見逃し0 3 安全の日、命の授業、震災を考える日の実践	1 道徳の時間完全実施及び授業公開(道徳部・各担任) 2 学校生活アンケートの毎月実施(生徒指導部) 3 命の授業・震災を考える日の設定を核とした指導(教務部)	○心の教育が教育活動の中心であることの周知を行うことができた。あいさつ運動の実践やJRC活動を中心とした奉仕活動を体験活動と関連させながら推進することができた。 ○子どもたちを対象に、毎月生活アンケートを実施し、困っていることや悩みごと等を把握した。いじめの兆候等を確実にキャッチし、即対応に生かすことができた。 ○命の授業(特別の教科道徳)を、授業参観で保護者や地域に公開し、学校・家庭がかけがえのない命を守り、育てる意識の共有を図ることができた。	学校外での地域交流・行事等にも積極的に参加するよう呼びかけをお願いしたい。	A B C D
確かな学力の育成	○ 基礎学力の向上	1 授業スタンダードに基づく授業実践 2 学習習慣の定着(家庭学習スタンダードの活用) 3 活用力育成シートの実施 4 年間1200ページ、24冊の読書	1 学力向上プランに基づく授業展開(研修部) 2 活用力育成シートを活用したプランの実践(担任・学力向上) 3 各種ボランティアによる読み聞かせや授業支援(教務部)	○学校での学習と家庭学習をつなぐための「家庭学習スタンダード」を基に家庭学習の進め方を指導し、家庭への理解を深めることができた。 ○学力調査を分析し、各学年・学級の学力向上プランを随時見直すことで、具体的な実践の重点化を図った。 ○図書ボランティア「コロポックル」の活発な活動により、読書活動をこれまで以上に活性化することができた。	家庭学習の方法について、今以上に各家庭が指導方法を理解し、子どもが自ら学習できるようになってほしい。	A B C D
健やかな体の育成	○ 体力の向上	1 1単位時間中の運動従事時間20分以上 2 特設部活動を通した挑戦する心の育成 3 外遊びの奨励と重視(体育部・学年) 4 朝食調べでの朝食摂取率100%	1 自校化した運動身体づくりプログラムの実施(体育部) 2 現有施設での特設クラブの効率的運営(特設主任) 3 ふくしまっ子児童期運動指針の活用と実践(各担任)	○体育の授業において、学年の実態を踏まえた運動身体づくりプログラムを毎時間位置付け、実践する事ができた。反面、学年合同体育が多く、運動従事時間を増やすことがなかなか難しい。 ○外遊びを奨励し、多様な外遊びができるよう支援することで、運動機会の増加に努めてきた。 ○体育科の水泳運動系の授業では、外部ボランティアを積極的に活用することで、水に慣れ親しむとともに、個々の技能の向上が図られた。 ○肥満傾向児が前年度と比較し、やや増加傾向である。継続して指導に努めていく必要がある。	肥満傾向児への対策や指導法等について、もっと家庭に情報提供してもよいのではないかと。	A B C D
教職員の資質・指導力の向上	○ 授業の質的向上	1 全員の授業公開の実施 2 授業での学び合いの設定 3 服務倫理委員会の定期的開催(年10回以上)	1 全員が授業研究を行うことによる授業力向上(研修部) 2 ベア・グループによる学び合いの効果的な位置付け 3 不祥事防止の話し合いと掲示による意識化	○授業研究を計画どおり実施できた。教師の指導力向上と授業の見方の向上につながる現職教育となった。 ○単元や単位時間の中で、より効果が図られるベアやグループの形態を考えていく必要がある。 ○服務倫理委員会では、不祥事を他人事としてとらえず、一人一人が自分のこととして考えられるよう、事例を基に学年やブロックで話し合いを行った。	不祥事の発生0を今後も継続していけるよう、よい職場の雰囲気を継続して行ってほしい。	A B C D
地域とともにある学校	○ 地域・保護者との意見の相互交流	1 HPを通して教育活動の周知を行う。(1日1回のHP更新) 2 学校通信、学年・学級通信の定期的な発行を行う。 3 学校開放(授業参観等)の実施	1 1日1回の学校HP更新を行う。(教務部) 2 学校通信(20号以上 校長)学年通信(15号以上 学年)の発行 3 年間5回の授業参観日の設定(教務部)	○学校の教育活動の推進状況を学校HPや学校通信等で発信することができている。また、保護者アンケート実施による意見の集約も実施することができた。 ○授業参観以外の教育活動を積極的に公開し、学校・家庭・地域の相互交流に努めてきた。(命の授業・特設クラブ発表等) ○学校評議員会を組織し、改善意見を求めることができた。	学校のことをいつでも確認できるので、HPの更新は継続して行ってほしい。	A B C D

特 記 事 項	次 年 度 へ の 課 題
特になし	○恵まれた教育環境、協力的な地域ボランティア、豊かな教育資源を積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びを展開し、身に付けた「知識・理解」を活用する「学び合い」指導の工夫を実践する。 ○家庭学習の充実に向け、家庭学習スタンダードを基に中学校と連携し、家庭学習の手引き等の改訂を行っていく。 ○肥満傾向児の減少に向け、体育科における運動従事時間の確保と、外遊びの奨励に継続して取り組む。 ○確実な「いじめ見逃し0」になるためのアンケートの継続実施とともに、職員一人一人のアンテナの感度を高めていく。 ○安全・安心を第一に「命を守る・命の輝きを目指す取組」に継続して取り組み、信頼される学校を目指す。